

新規野菜「パプリカ」の有望品種について

県内各地に設置されている直売場の運営や地産地消の促進にとともに、消費者が求める品目の多様化と継続的な出荷に対応できる有望品目として検討してきたパプリカについて紹介します。

今回は1月5日播種、3月16日定植、栽植密度1,440株/10aの2本整枝法により12月下旬までの収穫期で検討しました。

収穫は6月中旬から始まりましたが、2週間以上の差が見られました(表1)。

月別収量は、各品種とも概ね7～8月は高く、かつ7～8月の記録的な高温・乾燥の影響から、しわ果や尻腐れ症が多発し、以降大きくダウンした品種もありました(表1、図1)。

総収量では6,980kg/10aとパプリEゴールドが最も高く、次いでパプリEレッド、スピリット、フィエスタの順で上物収量もほぼ同傾向でした(表1)。

果重は6～7月には200g以上の大果になる品種も多かったですが、中期以降は小さくなる傾向がみられ、果重の変動が大きかったのはパプリEゴールドで平均果重も98.4gとベルタイプでは最も小果でした(表1、図2)。

糖度はBrix5.5～9.5%台で、ワンダーベルでは8.2%以上と最も高く、他の品種は概ね6～8%台で推移しました。

昨年は記録的な異常気象条件下での栽培となり、パプリカの生育には不良な環境であったことから、しわ果、尻腐れ症等の障害の多発や品種間収量・品質の格差も大きく発現するなどやや低い水準年になったとみられますが、赤色系ではスピリット、黄色系ではフィエスタが優れており、オレンジ色のオレンジナ系は他色系より収量はやや劣りますが、販売上は3色品種を取り入れた栽培が販売上有利と思われました。

(農試 園芸振興センター 村田英一郎)

表1 収量調査結果

品種名	調査項目	収穫開始 (月/日)	収穫果数 (果/株)	平均1果重 (g)	総収量 (kg/10a)	上物収量 (kg/10a)	上物率 (%)	尻腐れ率 (%)	ひび・しわ果 率(%)
ワンダーベル		6/25	23.3	115.6	3,884	2,586	66.6	5.0	9.3
カラーピーマンイエロー		7/1	15.6	174.5	3,915	2,028	51.8	1.0	19.3
ほのからパプリカ		6/17	54.6	49.4	3,884	2,735	70.4	6.6	0.8
フィエスタ		6/22	31.6	134.7	6,128	5,046	82.3	0.8	0.8
パプリEゴールド		6/14	49.3	98.4	6,980	5,592	80.1	0.3	1.4
オレンジーナ		7/1	25.8	156.0	5,784	4,601	79.5	0.3	5.5
スペシャル		6/17	26.4	141.8	5,393	4,589	85.1	5.7	1.2
パプリEレッド		6/22	31.5	138.0	6,257	4,996	79.8	0.5	4.3
スピリット		6/17	30.4	142.7	6,252	5,411	86.5	1.6	2.5

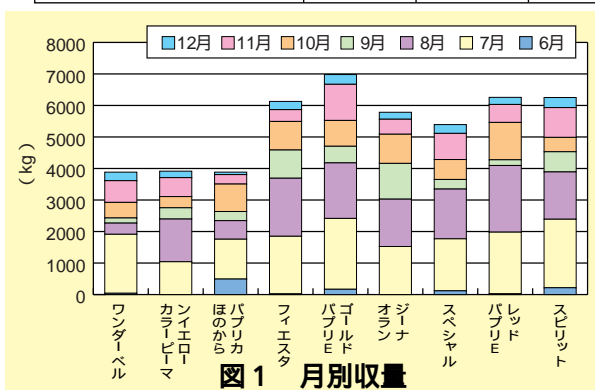


図1 月別収量

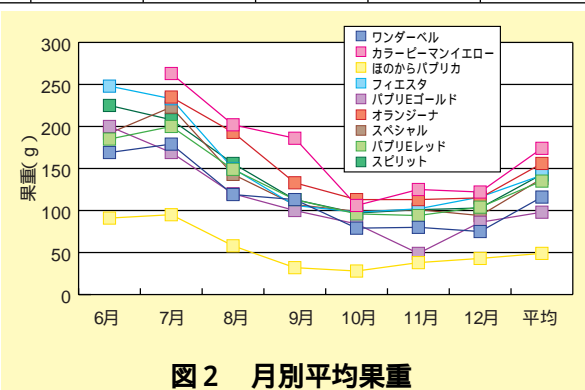


図2 月別平均果重